

経営学部創立50周年

学生・卒業生らが祝う



▲ 記念祝賀会で



▲ マンドリンクラブの演奏



▲ アカペラを聴かせてくれた Emo Hi!!



▲ 福原康司ゼミの4人によるプレゼンテーション



▲ 講演する黒岩彰さん(右)と加藤茂夫教授

盛大に記念講演会・祝賀会

経営学部創立50周年記念講演会と記念祝賀会が6月9日、生田キャンパスで開かれた。経営学部の学生、卒業生、教員ら延べ300人が参加。講演会では、富士急スケート部監督の黒岩彰氏(昭59商)をはじめ3人の卒業生が成功と挫折の秘話や人材育成にまつわる体験談を披露。参加者は熱心に聴き入った。

本学経営学部は1962年に誕生。「理論と実践の融合」の教育方針の下、常に時代の変化に沿ってカリキュラム刷新や教育体制を拡充。卒業生は3万5千人に達した。

講演会のテーマは「不

黒岩彰氏らOB3氏 後輩に成功秘話披露

そのあと黒岩彰氏が、加藤茂夫教授(創立50周年記念事業委員会委員長)との対談形式で「未来をひらく人材」をテーマに基調講演した。

専大入学時、当時スピードスケート部監督であったカールガリー冬季五輪(88年)よりも負けたサラエボが忘れられない」と

「人材を育成するに当たっては、常に変わらな

「好信業」から引用し、「好きな道を選び抜くことでも苦しいことでも楽しいと思えるようになる。いろいろなことにチャレンジできる学生のうちに多くを吸収、それによって増えた引き出しが今後の人生を助けてくれるだろう」と、後輩にエールを贈った。

馬場彬夫教授と奥村経世准教授を交えてのディスカッションでは、会場の企業経営者や教員から活発な質問が飛び、和やかな雰囲気の中に講演会は幕を閉じた。

記念祝賀会は、日高義博理事長・学長のあいさつ、来賓の小笠原英司明治大学大学院長の祝辞のあと、鏡開きで開宴。

音楽サークルのスカパンド研究会スフィード、マンドリンクラブ、Emo Hi!!、男声合唱グループの歌や演奏をバックに歓談が繰り広げられた。また、講演会で講師を務めた料理研究家・五十嵐氏が考案した「特製グリーンカレー」が披露された。



▲ 森田 隼人氏



▲ 五十嵐 豪氏

「現役を退き、専大のスピードスケート部監督を務めたのち企業の広報課長へ転身。プレスリリースを手を夜遅くまでマスコミ各社を走り回った。西武グループ在籍時は堤義明オーナー(当時)から松坂大輔の専属広報

化に応じて変えていくべき部分がある。これをやるには絶対結果が出る」と彼らとどうかわるかわるのかで決まる、と持論を展開。森田氏の講演は、「シヤボン玉石けん」に秘められた「一筋の理念」。同社は60年代に石油から作られた合成洗剤を主力に売上を増やしたが、先代社長である父・光徳氏が合成洗剤を使い続けることの危険性を知り「化学物質

を命じられ、タブーとされていたCM出演やメッシュに移籍に深く関わった。銅メダルを取ったカールガリー冬季五輪(88年)よりも負けたサラエボが忘れられない」と

「人材を育成するに当たっては、常に変わらな

「好信業」から引用し、「好きな道を選び抜くことでも苦しいことでも楽しいと思えるようになる。いろいろなことにチャレンジできる学生のうちに多くを吸収、それによって増えた引き出しが今後の人生を助けてくれるだろう」と、後輩にエールを贈った。

馬場彬夫教授と奥村経世准教授を交えてのディスカッションでは、会場の企業経営者や教員から活発な質問が飛び、和やかな雰囲気の中に講演会は幕を閉じた。

記念祝賀会は、日高義博理事長・学長のあいさつ、来賓の小笠原英司明治大学大学院長の祝辞のあと、鏡開きで開宴。

音楽サークルのスカパンド研究会スフィード、マンドリンクラブ、Emo Hi!!、男声合唱グループの歌や演奏をバックに歓談が繰り広げられた。また、講演会で講師を務めた料理研究家・五十嵐氏が考案した「特製グリーンカレー」が披露された。

専大とともに 神田神保町探索



オーナーの新居邦雄さん

アートショップ「信画堂」

張があるかどうかが大事」と言う、当店3代目のオーナー新居邦雄さん。

さらに日本画の最高峰・平山郁夫の作品でシルクロードを舞台にした「老人」、美術の大衆化、民衆芸術運動に尽力し、クレーパスを世に広めた山本鼎の絶筆「海」……。

味わい深い作品ばかりで、新居さんの絵にかけると美学がみえる。在庫は地下2階、同3階にもあり1400〜1500点になる。

「目を養うには? それほどにかく見る体験を増やすことに尽きますね。絵は現物の情景を越える瞬間があります」と絵画が持つ力を語った。

創業は関東大震災(1923年)の少し前。90年を超える老舗だ。新居さんの大祖父は立正大学の学祖である・新居日薩上人。

「創業当時は神田錦町の電気通信大学近くで店を構えていたんですよ。震災で被災。神田神保町に移りました」と新居さんの姉・協子さん。

新居さんが店を継いだのは戦後で、客は近所の絵画好きから田中角栄、ビル・ゲイツら各界の大物も。ゲイツはふらりと同店に立ち寄りピカソの絵を購入していったそう。

新居さんの薫陶を受けた作家は数え切れない。若い人には、無駄に見える時間を大事。無駄の中から「本もの」が分かりますからね。

※アートショップ「信画堂」
東京都千代田区神田神保町1-11-203・3291・2034
10時〜17時。日曜定休。

B・ゲイツも訪れた

路地裏の小さな画廊



カベには、日本のフォービスムの巨匠・林武の女性画が数点。いずれも10代のころの作品で、赤を基調にした絵の具が盛り上がり、むせかえるような熱気を感じるに迫っている。

「作家は勢いのある若いころの作品を見て判断します。上手・下手の問題ではなく、自己主張があるかどうか。それとなく、目を見ればわかる。それは、越える瞬間があります」と絵画が持つ力を語った。

創業は関東大震災(1923年)の少し前。90年を超える老舗だ。新居さんの大祖父は立正大学の学祖である・新居日薩上人。

「創業当時は神田錦町の電気通信大学近くで店を構えていたんですよ。震災で被災。神田神保町に移りました」と新居さんの姉・協子さん。

新居さんが店を継いだのは戦後で、客は近所の絵画好きから田中角栄、ビル・ゲイツら各界の大物も。ゲイツはふらりと同店に立ち寄りピカソの絵を購入していったそう。

新居さんの薫陶を受けた作家は数え切れない。若い人には、無駄に見える時間を大事。無駄の中から「本もの」が分かりますからね。

※アートショップ「信画堂」
東京都千代田区神田神保町1-11-203・3291・2034
10時〜17時。日曜定休。